

栃木県原水協ニュース

No 189号 2019年4月1日
 原水爆禁止栃木県協議会
 〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30
 栃木県労連気付 電話 028-653-1401
 メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

宇都宮市原水協と県原水協で6・9署名行動



宇都宮市原水協と県原水協は、3月9日宇都宮市東武北口で署名行動を行いました。

署名行動を始めたから、すぐに男性が署名と募金の応じてくれました。その後別の男性が「なんの署名だい」と声をかけてきたので「核兵器廃絶の署名ですよ」と話すと、「これは大事なことで、俺は創価学会員だが、核兵器はなくすことには同感だ」署名と募金をしてくれました。

署名はできないけれど「多少ですが」と、2人の婦人が募金をしてくれました。当日、ヒバクシャ国際署名4筆と800円の募金がよせられました。



3・1ビキニデーに参加して
 栃木県保健医療生協
 金田 みな子

急な参加となり、80歳にして初めての3・1ビキニデーでした。

第1日目の分科会では「原発ゼロ、被災地支援、自然エネルギーへの転換をめざして」に参加しました。原発も核兵器も元は同じものであると言っていました。この分科会には、若者も多く参加していましたが、特に嬉しかったのは、山梨県の民医連の女性職員が山梨大学医学部6年生の奨学生と参加していたことでした。

今年は第五福竜丸が被爆して65年、来年は広島、長崎が被爆して75年、福島原発事故から9年にもなりますが、人の記

お詫びと訂正

先月188号ニュースの金田みな子さんのビキニデー参加感想文中に「来年は広島、長崎が被爆して70年、福島の原発事故から8年にもなりますが」とありましたが、それぞれ75年、9年の誤りでした。関係者の皆様にご迷惑をおかけして、大変申し訳ありませんでした。ここにお詫びして、上記訂正版を再掲致します。

2019年国民平和大行進栃木県コースは6月29日～7月13日です。今年は北海道からの通し行進者はありません。県内の通し行進者を募集しています。あなたもチャレンジしてみませんか？

だに核廃絶の運動を続けなければならぬのかと、少し重い気持ちでいましたが、全体集会の中で、世界各地で核廃絶の運動が広がっている様子が報告され、力強い明るい希望を感じることが出来ました。何事も決断して諦めることなく、続けることの大切さを学習しました。

この地球上から、全ての核がなくなくなるまで、私も微力ながら、命ある限り一人でも多くの人に核をなくす訴えを続けたいと思います。

大会に参加させて頂き、ありがとうございました

「ヒバクシャ国際署名」数

諸団体	県北原水協	2,820筆
	県南原水協	102筆
	宇都宮市原水協	1,266筆
	非核の会	191筆
	新婦人の会	8,191筆
	民医連	2,142筆
	保険医協会	604筆
	県原水協	134筆
	小山推進委員会	140筆
	非核下野市の会	264筆
県労連	28筆	
栃木県平和委員会	54筆	
自治体	日光市	953筆
	下野市	494筆
	栃木市	81筆
	小山市	109筆
	上三川町	160筆
壬生町	165筆	
合計 (3/24 現在)	17,898筆	

2019年 国民平和大行進

日程・コース



第2回国民平和大行進栃木県実行委員会のお知らせ

日時：4月27日(土) 午後2時から
 会場：栃木県労連事務所

3. 1 ビキニデー参加者感想文

ビキニ事件と原水爆禁止運動から学ぶ

県北原水協 畠山 絢子

核兵器廃絶運動の出発点となった3・1ビキニデーに50年ぶりに参加しました。1954年3月1日アメリカは米ソ冷戦を背景にビキニ環礁で水爆実験を行い焼津のマグロ漁船第五福竜丸の漁船と乗組員が被爆。

久保山愛吉さんが死亡し、2名は全員急性放射能障害に。マグロは投棄された。その後の調査で9百隻以上の漁船が近海に操業していたことがあきらかに。当時十歳だった私はラジオから流れるガイガーカウンターのバリバリ音が耳に残っている。

広島・長崎に続き三度甚大な被害をもたらしたことに多くの国民が立ち上がり、原水爆禁止を求める広大な運動が始まりました。日本政府は反核世論の高まりを恐れ、アメリカの意を受け、「賠償金」でなく「見舞金」で幕を引き鎮静化した。多数の被害者の救済も補償せず、被害の全容解明がされませんでした。

しかし高知の教師と高校生が船員や遺族の証言から福竜丸以外の隠された被災船の真実が明らかになり、厚労省報告の一部資料が出て来たことで、まだビキニ事件は終わっていないと救済を求めています。

「人権」や「非核平和運動」を多くのひとがあきらめず、大義をもって力を合わせていく大切さが実感できる大会でした。運動を継承する若者の参加も目立ち光が見え始めています。

2019年3・1ビキニデーの感想

栃木医療生協 沼尾 里砂湖

初めてビキニデーに参加した。ビキニ事件から65年経ったいまなお解決はされておらず、核兵器被害の深刻さを実感する。それと同時に、草の根運動が着実に歴史を動かして続けている様子もうかがえた。「ヒバクシャ国際署名」も大事な要素であり、すべての運動が平和に繋がっているのだと思えた。

ビキニ事件当時は声を上げるのが出来なかった船員たちが、60年経ってからの調査に協力を名乗り出てくれたという映像が印象深かった。

また、2016年5月に提訴されたビキニ国家賠償請求訴訟についての講演もあった。2018年12月に高知地裁で棄却されるも『長年にわたって省みられることが少なかつた漁船員の救済の必要性については改めて検討されるべきとも考えられる』と、被ばくを認め救済を促す文言が出された。国家による人権侵害を放置することはできないと立ち上がった梶原弁護士は「大きな前進である」と声を震わせながら話してくださった。ビキニ事件はまだ終わっていないが、時が経ち光の当たる瞬間もあるのだと思えた。

核兵器禁止条約をめぐる世界情勢もいま大きく動いている。政治を変えていかなければ「核兵器のない世界」を実現することはできない。集会に参加し、理想と現実異なるが、諦めず理想を描き続ける姿勢が求められているのだと思えた。参加させて頂きありがとうございました。

3. 1 ビキニデーに参加して

県北原水協 高嶋 ヒサ子

3・1ビキニデーに初めての参加でしたが、驚いたのは若い方々が多いということ。それも、20代、30代、40代、そのうえ、とても熱心です。私が参加した分科会では、「僕は、22歳、活動家になります。」とききました。思わずパチパチと手を打ちました。墓参行進の時は、漁師たち6、7人がかたまり漁船の上から手を振っている、こちらからも手を振る。路上では住民4、5人くらいが並んで、厳かにこちらを温かい目で見ている。彼らは、このビキニデーを見守っている。きつと、

彼らは、毎年、毎年、水爆実験の被害者を思い、核廃絶が達成できることを願い続けてきているのだと気が付き、思わず涙がこぼれそうになりました。

アメリカのビキニ環礁での水爆実験は、広島に投下された原子爆弾の約1,000発分に相当する爆発威力、多くの漁船が被害を受けました。その後も、ロシアなども加わり水爆実験が続けられてきている。それに対して、65年もの時の流れの中受け継がれてきた3・1ビキニデーの意義。3・1ビキニデーはこうやって受け継がれる。そして、これからも受け継がれ、そして、これからも受け継がれる。だからこそ、若い方々に伝わり広がっているのかもしれない。アメリカ、ロシアなどの核保有国の思惑通りに、この事実が風化し忘れ去られないように。私は、この矛盾だらけの世の中に心底からの怒りを覚え、体が震えまわった。そして、3・1ビキニデーをやり続け、訴え続けようと思えました。

ビキニデーに参加して

新婦人宇都宮支部 浅井 ウメ

初参加です。人間いくつになっても自分の目で見、考えることが自分を変えていくことだとつくづく思いました。映像や本などで得た知識とは次元の違った重みです。焼津市文化センター内にある第五福竜丸関係資料館を見学しました。久保山愛吉さんが治療中にやり取りした手紙には家族への細やかな気遣い、同じく治療中の仲間達を案ずる言葉にあふれ、声まで聞こえるような気がして、65年たったとは思えないものがありました。あの小さな古い船でマシーナル諸島まで漁に出ること自体が命がけだったでしょう。

日本は被災者の援護や補償よりアメリカの要求を優先してきたため、いまだに全容解明に至らず、高知の国賠訴訟に携わる弁護士梶原守光氏の言葉通り「ビキニはまだ終わっていない」です。

核兵器禁止条約を批准済みの国は漸次増加しつつあります。日本はいつまでもアメリカに追随するのではなく、被爆国として、独立国にふさわしい判断をし、行動することが日本のあるべき努めでしょう。原発や核兵器は次世代に残さないように流れを大きく変えて行きたいものです。

3・1ビキニデー全国集會に参加して

栃木県労連 渡邊 正典

2019年2月27日から3月1日にかけて、静岡市、焼津市で開催されました3・1ビキニデー日本原水協全国集會のうち、私は3月1日の、被災65年 2019年3・1ビキニデーの墓参行進及び集會に参加して参りました。

特に韓国からの出席者の発言に心が寄せられました。くしくも3月1日は、韓国では3・1万歳事件のあった日であり、今年はちょうど100年目という節目の年であった訳ですが、決して感情的になることなく、冷静に事件の実相をとらえ、5月に日韓問題に関する行事を行おうとしている姿勢、前を向き続ける姿勢には、特に感心が寄せられました。

平日であるにもかかわらず、墓参行進及び集會に1,000人以上の方が参加している現状を見て、いかに多くの方が、「核兵器のない平和で公正な世界」を希求しているかが分かりました。おりしも、2月27、28日にベトナムのハノイで、「米朝首脳会談」が開催されましたが、政治家ベースでの国際間の話し合いがうまくいかなくても、市井の人々の「草の根の行動」により、核兵器廃絶運動、平和運動が前進していることを再認識し、改めてこの運動に国境はない、国籍はあくまで便宜上作られたものであり、平和を追求する心は万国共通であると確信が持てました。